

Part2

高等学校の部

第5章

キャリア教育の提案と実践
(アクティブ・ラーニングの提案と実践)

授業の開発と教材の作成（キャリア・コンサルタントの専門性を活かしたキャリア・コンサルティングの実施）

【企画するテーマの例】

V R Tテストの結果を活用し、生徒のキャリア形成を支援するために、生徒との個別のキャリア・コンサルティング（結果のフィードバック）を行う

高等学校におけるキャリア・コンサルタントとして

高校におけるキャリア形成支援の経験は、「自分らしく生きるとは～、働くとは～、事務の仕事とは～」などの様々なテーマをグループワーク形式で考える「出前授業」から始まりました。授業では、その日初めて会う生徒の気持ちを受け止めながら、授業の目的をしっかりと伝え、授業に巻き込んでいく工夫が必要でした。その後、生徒や保護者との個別面談、キャリアセンター設立に向けた支援と活動は広がっていきました。

私が接した生徒は、自分の可能性に夢を膨らませている一方で、大人への信頼感と自己肯定感の低い生徒が少なくありませんでした。そうした生徒がキャリア・コンサルタントである私に求めているのは、親や教師とは異なる立場で自分を一人の人間として対等に扱ってくれる「第3の大人」という立ち位置、換言すれば友達や先輩では不十分な専門知識を教えてくれたり、悩みを共に考えてくれる「専門家」という役割でした。

他方、学校から求められていたのは、生徒が希望する進路の実現に向けたモチベーション高揚のためのキャリア・コンサルテーション全般、クラス担任との連携、外部専門家人材として、外部資源とのネットワーク構築、などです。

生徒と学校双方のニーズを合せて考えると、高校のキャリア・コンサルタントに期待されているのは、「進路コーディネーター」としての機能と役割です。そうした機能と役割を果たすためには、廊下でのちょっとした会話の中からも課題を把握する力、本音ベースの問題を受け止め解決に向け一緒に考えていく姿勢、周りにはいる専門家たちの支援を得るためのネットワーク構築などが必要です。

最近特に意識しているのは、地域にある様々な支援機関との密接な連携による重畳的な支援を行うことです。発達過程での問題や親の困難を引き継ぐ等、様々な課題を抱える生徒に対し、専門機関や専門家と連携・協働することで、キャリア・コンサルタントとして、必要とされる時期に、必要とされる価値を提供できるよう、さらなる研鑽を重ねたいと思います。

2級キャリア・コンサルタント 木村 美和子